

# 令和6年度 小・中学校教育課程研究協議会に係る各部会の改善の重点

部会名

小学校 特別活動

## 改善の重点

- ① 「指導と評価の一体化」を実現するため、各学校で定めた評価の観点に基づく「内容のまとまりごとの評価規準」に即して、1単位時間だけでなく活動の事前から事後までの一連の学習過程を多面的・総合的に評価し、学級担任とそれ以外の教師とで連携すること。
- ② 特別活動をキャリア教育の要として、学校の教育活動全体を通してキャリア教育を行うとともに、児童が活動を記録し蓄積する教材等（キャリア・ノート等）を活用すること。

## 1 設定理由

- 児童に「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力が偏りなく育成されるよう、特別活動の各活動及び学校行事を見通して、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進めることが求められている。
- その際、育成を目指す資質・能力が身に付いたかどうかを判断したり、児童の学習状況を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、児童が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにしたりするためには、学習評価の在り方が極めて重要である。
- 特別活動の評価において最も大切なことは、児童一人一人のよさや可能性を積極的に認めるとともに、自ら学び自ら考える力や、自らを律しつつ他人とともに協調できる豊かな人間性や社会性など生きる力を育成する視点から評価することである。児童が自己の活動を振り返り、新たな目標や課題をもてるようにするため、活動の結果だけでなく活動の過程における児童の努力や意欲などを積極的に認めたり、児童のよさを多面的・総合的に評価したりすることが大切である。
- さらに、総則において、特別活動が学校教育全体を通して行うキャリア教育の要となることが示されている。日常の教科等の学習指導においても、学ぶことと自己の将来や社会づくりとを関連付けながら、見通しをもって職業的・社会的自立に向けて基礎となる資質・能力を育成するなど、教育課程全体を通してキャリア教育を推進する必要がある。
- その際、児童が活動を記録し蓄積する教材等（キャリア・ノート等）を活用し、発達の段階に応じた系統的なキャリア教育を充実させることが重要である。

## 2 研究を進めるに当たって

(1) 実践に当たっては、以下の点に留意すること。

- ① 目指す資質・能力を確実に育成するため、1単位時間だけでなく、事前・本時・事後の指導と評価の計画を作成すること。その際、各学校で「B おおむね満足できる状況」とは「児童のどのような姿」を指すのかを検討し、共通理解を図って学習評価を行うこと。
- ② 特に学級活動(3)「一人一人のキャリア形成と自己実現」では、児童が活動を記録し蓄積する教材等を活用すること。その際、県が配付する「未来をえがくキャリア・ノート!」を積極的に活用すること。

(2) 参考とすべき資料

- ① 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』国立教育政策研究所
- ② 「大分県教育委員会:キャリア・ノート活用時期と内容(例)」大分県教育委員会